2022年度活動概要　　授業学（関西）研究会

授業学（関西）研究会では、これまで研究メンバーが個々の授業を内省し、よりよい授業を目指し改善を重ねてきた。その改善のプロセスにおいて個々のメンバーの実践について研究会メンバーが考察してきた。

2022 年度の研究テーマを「学習者中心の英語教育」と設定し、飯田毅代表が英語教育からの観点に加え、行政からの考察観点、さらに授業学研究の観点から研究の重要性を紹介し、個々のメンバーが考察を重ねている。

この視点に立った授業研究と実践を「授業学（関西）研究会論集第 2 号」に 5 編を収め、JAAL-in JACET でのポスター発表において配布した。今後、この論集をまとめた pdf ファイルを公開していく予定である。

また、第 4 回ジョイントセミナー「新学習指導要領後のもとでの英語教育：小・中・高・大の連携」のテーマのもと、最終プログラムの授業実践報告を授業学（関西）研究会が担当した。実践報告の共通テーマとして「SDG s を題材として各教育機関における教育実践」を 4 名の実践者が報告した。この実践紹介を通して、各教育機関での英語学習の現状を共有すると同時に、小・中・高・大連携をより深めるためにどのような課題があるかを紹介した。今後、このテーマについても考察してゆく。